

研究室紹介「福光研究室」

福光研究室です 書道科
4 回生 17 人のうちの7名と、
3 回生 17 人のうちの 11 名が、
福光研究室の仲間として日々
書道に励んでいます。(全員
女！) 私たちを指導してくださ
るのは、福光佐今先生です。

みなさんは書道という堅
苦しい感じがしたりもするで
しょうが、ただきれいに書くだ

ではなく、時には激しく感情を表現してみたりと、
取り組んでいます。(けっこういい汗かけますよ



記事：総合教育課程芸術文化コース 書道芸術専修 4 回生
鶴田 智恵子



ある意味スポーツのように
() 今年の目標は全日本高
校生大学生書道展に入
賞して、1つでも多くの垂
幕を生協前に掲げること
です!! 定期的に展覧会
もやっていますので私たち
の成長をぜひ見に来てく
ださいね

クラブ紹介「ウインドアンサンブル部」

こんにちは ウィン
ドアンサンブルです

私たちは今、6月に
行われる「阪神国公
立大学吹奏楽連盟
合同演奏会」にむけ
ての練習をしています。
合同演奏会では
他大学のメンバーと
同じステージで一緒に演奏することができます。



また、合同演奏会の後は私たちの最大イベント、定期演奏会に向けての練習を始めます。新しいティンパニーも買っていただき、ますますステージで輝けるよう頑張っていきます。そんな私たちと一緒に音楽を楽しみませんか??

いつでも見学に来てください もちろん入部も大歓迎です

練習日 (水)(土) 13:00 ~ 17:00
(木) 16:30 ~ 19:30

場所 第二アンサンブル室

連絡先 a045634@student.nara-edu.ac.jp



記事：佐藤 由佳 (ウインドアンサンブル部部长)

スクールサポート

学校を身近に感じられるスクールサポート

大学院教育学研究科 教科教育専攻
理科教育専修 1回生 仲島 浩紀

私は、奈良市立若
草中学校にスクールサ
ポーターとして2年間お
世話になりました。若
草中学校では、主に理
科の授業のティーチン
グ・アシスタント(TA)
として実験や観察など
の準備やその補助を行



いました。実際に、授業に参加することで子ども達が理科の授業内容について「どのようなことを考えているのか?」そして、「どのような時につまずいてしまうのか?」ということを垣間見ることができました。

また、若草中学校では色々な学校行事に参加させていただく機会を得ました。このように色々な側面から学校に関わっていくことで、教師という仕事が教科指導だけでなく実際には生徒指導や進路指導、さらには行事の準備など実に多くの教務が存在し、本当に大変なものであると改めて知ることができました。

しかし、その大変さや責任の重さを知る一方で、実験の時など子ども達の驚く顔や笑顔を見ると「なんとやりがいのある仕事なんだ」と感じることができました。今、学校現場ではより教育実践力を持った教員が求められています。教育実習だけで満足するのではなく、ぜひ継続的にスクールサポート事業など色々な実践活動にチャレンジしてみたいと思います。

平成18年度ボランティア説明会(事前指導)兼派遣壮行会
及びマッチングが5月11日(木)午後4:30より大講義室で
開催されます。

教員志望の方はぜひご参加下さい。
ご不明の点は、学生支援課におたずね下さい。

日本留学事情

本学在学中の留学生に日常生活で感じたことを書いていただきました。

日本での本当の日本語との出会い

トマシュ・マリノフスキ(ポーランド)

日本に来てから、さまざまなところ
に行ったり、数々のことを経験したり、
日本人の生活を観察したりすること
によって、日本と其の文化について、
多数の新しいことを知ることができた。
其中で、ポーランドの大学で教え
られてきたことを基にした、私の日本
についての考え方と大分違う事実
もたくさんある。其のひとつは、毎日の生活で使われる日本語である。



確かに、たいい留学生在自分の国で学習してきた日本語は、理想的で非常に綺麗な、NHKの番組で聴けるような言語だが、やっと日本に来てから、町や大学で会う日本人の話を耳にし、それはまったく違うということに気付いて、皆びっくりしたろう。ポーランドでは、特に高学歴の人、及びに科学者・文化的な活動と関係がある人や学生などは、文語の言葉を多数に使うような、優雅な標準語で話すべきだという考え方があった。そのため、一般的に、方言で話す人は、畑から帰って来たばかりのような、野暮な人に思われてしまう。それに慣れた私には、毎日接する日本人の学生達はあまりいい印象を与えていなかった。だが、其のポーランド人の見方を徐々に克服できて、その「粗い」日本語のいくつかの要素が好きになり、自分でも使うようになってきた。「そうツネ」や「こんにちは」などのような表現を使ったり、「食べて」の代わりに「食え」といったりするのは、国で習った「NHK」の日本語より楽しく、何らかの魅力があるのではないかと、友達の留学生でも頻りに使うのを見て思った。そもそも、外国の大学で教わる日本語は、普通に使われていないということだけではなく、その話し方は不自然だということは、日本に来て皆わかっただろう。

いずれにせよ、上記のような日本語が留学生に覚えられ、常に使われるという現象には危険性がある。それは、遠い国の外国人がポーランド語で汚い言葉を使ったりするのを想像すればわかる。我々留学生にとって、日本語は外国語で、その言葉(特に悪い意味を持つ方)が伝える感情を正確に把握できない場合が多く、それを耳にする周りの人々に衝撃を与える虞があるから、その使い方に十分注意を浴びせねばならぬ。だが、あまりに面白くて楽しいから、そのような日本語を話さないようにしようと呼びかけず、ただ、日常生活の中で、正式に正しい日本語と実際に使われる日本語をはっきり区別し、意識的に使う必要があると留学生の皆にこの文章で伝えたいと思っているのである。

天平雲では、次号以降も、クラブ、研究室を紹介していきます。つきましては、うちのクラブは、こんなに楽しい。私の研究室は、こんなに頑張っている等の記事を募集します。希望される方は、学生支援課まで申し出てください。